

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300477	事業の開始年月日	2024年4月1日	
		指定年月日	2024年4月1日	
法人名	株式会社ナラティブ			
事業所名	グループホームやよいの杜 ユニット名：桜華			
所在地	(〒 984 - 6539) 仙台市若林区若林七丁目10番19号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2025年1月8日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ともに泣き、ともに笑い一瞬、一瞬を大切に」を事業所目標にしています。職員、ご利用者と分けることなく、やよいの杜の皆が家族の一員として、その瞬間のできごとを共感できるような環境作りに努めています。
また、法人理念にもある「あたりまえの権利」を大切に、いろいろな障がいをもっていても皆で助け合い、支え合い、その方の残存能力を見極めながらできることを一緒にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

・法人理念：わたしたちは「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」をめざします。人と人、街、自然との関わりを大切にしながら、一人ひとりの想いに耳をかたむけ、誰もが自分の人生の主人公として主体的に生き、価値を認められて人となりがりながら生きる権利を応援します。
・事業所目標：「ともに泣き、ともに笑い一瞬、一瞬を大切に」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

清山会医療福祉グループに所属の法人「株式会社ナラティブ」は、2024年4月に「グループホームやよいの杜」を開所した。清山会のグループとしては若林区で初めてのホームであり、職員公募により名称「やよいの杜」と決定した。ホームは若林7丁目の住宅地の中にあり、2階建ての2ユニットである。ユニット間は、エレベーターと段差の低い階段で自由に行き来できる。近くに商業施設も多く、買い物を楽しんだり、近くの広瀬川の緑地が広がる河川敷でゆっくり散歩もできる。

【事業所の優れている点・工夫点】

①理念の実現に向けて取り組んでいる点

2024年4月開所し、まだ1年経っていないが、管理者を中心に職員は、理念に掲げている『利用者が安心して自分のあたりまえの生活』ができるよう日々のケアに努めている。

②外出の機会を多く設定している点

現在、ほとんどの利用者が自立して歩行しており、家族から「できるうちに散歩などさせてほしい」との要望もあり、外出の機会を増やしている。

③地域との関わり作りに努めている点

地域の班長から声かけがあり、町内会の加入を勧められて加入した。今後は町内会の行事等に参加しながら交流を深め、ホームのことを理解してもらえるように働きかけて行こうとしている。また防災訓練などでも協力体制が整えられるよう信頼関係を築いていきたいと考えている。

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	グループホームやよいの杜
ユニット名	桜華

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3. たまにある
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3. たまに
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

自己評価および外部評価結果（事業所名：グループホームやよいの杜）「ユニット名：桜華」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。ミーティングや管理者との面談時、日々の勤務時にも振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人理念のもと、事業所開設前に事業所目標を職員で考えた。理念を共有して日々のケアに活かし、ユニットミーティングなどで日々の関わり方を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、区長や地域包括支援センターの職員の方々と2ヶ月に1回の運営推進会議などを通じて交流を図っております。近隣への散歩や買い物を通じて、地域の一員になれるよう交流出来る機会を設けています。	町内会に加入し、年間スケジュールにある河川敷の掃除や、夜間のパトロールなどに職員が参加している。散歩や買物の時など、近隣住民と挨拶を交わしている。	地域住民との交流、協力体制が徐々にできることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、定期的に事業所の様子をお伝えする中で、認知症の人の理解や支援方法をお伝えしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、町内会の区長や地域包括支援センターの職員に事業所の様子等をお伝えしております。	メンバーは、町内会役員、班長、地域包括職員、利用者、家族も出席し2ヶ月に1回開催している。ホームからは運営状況など報告し、町内会からは行事の案内などがある。家族から協力したいという意見もあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、事業所の様子や活動について、地域包括支援センターにお伝えしております。必要時は協力のお声がけをさせて頂いております。	区役所には不明な点などを電話で照会・相談している。運営推進会議メンバーである地域包括職員から必要時に助言や支援などを得ている。区の保護課とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回、身体拘束適正化委員会を開催するとともに、事業所内の勉強会にて、身体拘束をしないための研修を行い、職員の理解を深めるようにしています。また、安易に施錠をしないようにドア付近にセンサーチャイムを設置するなど工夫しながら対応しています。	年4回「身体拘束適正化委員会」を開催している。また内部研修を行い職員はグレーゾーンカードに記入し、検討している。日中玄関は施錠せず、センサーチャイムで対応している。夜間は防犯のため19時から翌朝6時半まで施錠している。離設事故に備えて、法人からGPSの支給があった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会で虐待防止についての研修を行っています。また、「不適切ケア」がないか日々の関わりについて振り返る機会を定期的に設け、職員の理解と意識付けに努めています。	内部研修を行い、日々のケアの中で不適切な言葉遣いや行動がないか振り返り、虐待防止について理解できているか確認している。新人や若い職員が多く、気になる場面では管理者がその場で指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会にて成年後見制度について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族と一緒に契約内容や重要事項を読み合わせし、その都度、疑問に答えながら、不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安には、いつでも応えるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、ご利用者の日々の様子をお伝えするとともに、ご家族からご要望やご意見を伺う機会を設けています。いただいたご意見に対しては、全職員で共有し、改善を図っています。また、玄関には意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	面会時や電話で意見・要望を聞いている。また運営推進会議に家族が出席しており、その際にも意見・要望を聞いている。家族からは「できるうちにもっと運動や散歩をさせてほしい」、「認知症ケアについて教えてほしい」などの意見が出されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じて、なかなか言いにくい意見や希望などを拾い上げる機会を設けています。	職員は、管理者と年2回面談し、自分の立てた目標について確認をしている。また法人が行うメンタルヘルスアンケートで出された、言いにくい悩み、仕事の不安などについてもすぐ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	総合職や役職者へのチャレンジ制度を法人として設けており、職員自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じて、職員の意見を反映できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしています。また1年目、2年目とフォローアップ研修があり、職員からの意見を聞く機会もあります。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	Zoomで開催している地域ケアよろず懇話会に参加し、同業者やそれ以外の職種の方の意見を聞く機会があります。また、法人内の研修等を通じて、横の繋がりができるような仕組みもあります。	清山会医療福祉グループ主催の「地域ケアよろず懇話会」にオンラインで参加している。法人の研修会では、医療との繋がり方を学び、サービスの質の向上を目指している。宮城県認知症グループホーム協議会に加入している。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含めた事前の面談を行い、ご本人の思いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたって関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、ご家族を含めた話し合いの場を多く持ち、ご家族の不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるよう、じっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるように対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族やこれまで利用していた施設・病院の職員や、ケアマネージャーから詳しくお話を伺い、収集した情報を基に多職種で見極めを行い、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な電話、毎月の手紙を通じて、コミュニケーションを図る機会を設けております。また、こまめに日々の様子を報告したり、訪問診療時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。馴染みの方に会いに行ったり、馴染みの場所に行く機会を定期的に設けております。	面会の規制はないが、事前に電話で時間等を確認している。正月などに自宅に泊まったり、お盆には家族と墓参りに行く人もいる。近所のお店に、職員と一緒に出かけ、好きな物を買ってくることもある。「行けるうちは馴染みの場所に連れていきたい」と望んでいる家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。職員が間に入ることで交流が図れる方の場合、積極的に関わりが持てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的な電話連絡や毎月の手紙で関係性が途切れることのないよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けて対応しています。	現在、ほとんどの利用者が思いや意向を伝えられるが、入居前の生活については家族からも生活歴などを聞いている。生活歴から夫婦で入居していてもユニットを分けるなど、利用者一人ひとりが穏やかに暮らせるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にもご協力頂きながら、入居前の聞き取りで、これまでの生活習慣や生活環境の把握に努め、入居後も日々の関わりの中でご本人の情報把握に努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいたご本人の心身状態や変化などを共有する申し送りノートを作成し、職員間で把握できるよう努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、関係者でカンファレンスを開催し、プランを立てています。その方自身のケアプランの目標を達成できるようミーティング時に話し合い、実践、改善を行っています。	介護計画作成担当者は、本人、家族から聞き取りをしている。居室担当者からもモニタリングを行い、介護計画の目標が達成できるよう3ヶ月に1回ユニット会議にて計画の見直しを行っている。入院が必要になるなど、状態変化があればその都度計画を見直し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の職員同士の会話の中で情報共有し、実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、要望が実現できるようすぐに対応しています。今後、看取り期における面会なども実施する予定です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の河川敷、施設などを散歩しながら周辺地域の話などを行い、近隣の地域の方とも交流の機会が持てるようにしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望のある方には訪問診療について説明し、定期的に受診いただいております。何かあれば、随時ご家族に連絡ができるように対応しています。	入居時に希望があれば「清山会医療福祉グループ」の内科医がかかりつけ医となり、月2回訪問診療を行っている。その他の通院は職員が同行し、状態に変化があれば家族に報告している。「清山会医療福祉グループ」の看護師が週1回訪問し、健康管理をしている。訪問歯科とも契約しており、口腔ケアや治療を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと連携を図り、週1回以上看護師が訪問しており、その都度、報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し、後にアドバイスをいただくなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者には入院時にその方の情報を伝えていきます。また入院時や退院時に病院関係者に不安なことなどを相談し、助言をいただいています。いただいた情報は、職員間で共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における指針の説明を行っています。また、主治医と話し合う機会を設け、ご本人、ご家族の意向を確認した後に看取りの指針をお伝えし、共有を図っております。状況に応じ、地域の訪問看護ステーションとも連携を図り、チームで支援しております。	入居時に重度化した時の指針を家族に説明している。昨年、看取りを行った際は、食事や水分摂取ができなくなった時点で、家族に医師から改めて看取りの流れについて説明を行った。ホームで初めての看取りであり、新人や若い職員が多いため、今後、落ち着いたら職員アンケートで振り返りを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会で急変時や事故発生時の対応について研修を行っています。ユニットミーティング時にも振り返りを行います。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の把握を行い、事業所では年2回、避難訓練（夜間想定を含む）を実施をしています。災害時の備蓄なども備えています。地域の防災訓練にも参加予定です。	火災、風水害、地震対応マニュアルの他にコロナ、インフルエンザなど感染症対応についてのマニュアルも整備されている。年2回、避難訓練を実施し、業者が設備点検を行っている。その他、毎月職員が消火器などのチェックを行っている。今後、地域住民の応援、協力が必要だと考え検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の想いに耳を傾け、相手を理解しながらご本人を尊重し、お一人お一人に合せた声掛けを行っています。	入居前からの呼び名やなんと呼びたいか本人に聞き、一人ひとりに合わせた声掛けをしている。接遇、プライバシー保護の研修も行っている。本人の羞恥心を考えて、入浴や排泄介助の際には周りの人に気づかれないよう声がけし誘導している。居室に入る時もノックや声がけし確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相性も考慮しながら、お一人お一人との関係を構築し、それぞれが自己表現、自己決定が自由にできるよう職員間で連携しながら、働きかけを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の起床や就寝時間、食べ物の好みも異なるので、その方のペースや好みに合わせて生活をしていただいています。職員の都合が優先とならないように徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びなどはご本人に決めて頂いております。ご自身で選ぶことが難しい方は、季節や気温に合った洋服を着ていただいております。男性は毎日、または入浴時に髭剃りを行い、身だしなみを整えていただいております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの、嫌いなものなどご意向を確認しながら、好きな食事の提供をしております。見た目や色合いなども工夫しております。行事の際の食事也希望を伺いながら、食事内容の選択ができるよう、食事が楽しめるような工夫をしております。	食事はホームで手作りしている。季節の行事に合わせた食事を考えて提供もしている。誕生日には本人の好きな物とケーキでお祝いしている。利用者は盛り付け、味見、食器洗いや皿拭き、テーブル拭きなどを職員と一緒にやっている。水やりを行いながら、プランターで育てたトマトや小松菜なども食材に取り入れ楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や栄養がバランスよく食事できるように献立を作成し、食事中に感想を伺っています。水分が少ない方には代わりになるようなヨーグルトやゼリーを召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨きし、入れ歯の方は毎晩洗浄剤を使用して口腔ケアを行っています。口腔内の状態を常に観察し、必要時に歯科受診も行っていきます。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄の状況を把握し、排泄リズムを把握しながらご本人の自尊心を傷つけないようなお声かけを心掛けながら対応しています。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、タイミングに合わせて声がけやトイレ誘導を行っている。夜間は睡眠を優先し無理に起こさず、状態に合わせたパッドを使用するなど工夫している。便秘対策としては食事に乳製品を取り入れたり、体操や散歩など体を動かすよう声がけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分など、その方に応じた体調管理や便秘予防に努めています。できる限り下剤など薬に頼らないよう、体操など日々の活動にお誘いしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂がお好きな方の希望に沿ったり、可能な限りご本人の希望に沿った時間に入浴していただいています。ご本人の使い慣れたシャンプーなどを使用し、入浴を楽しんでいただいています。	週何回に拘らず、本人の希望に沿って入浴を楽しんでもらっている。自立している人も多く、風呂好きで毎日入る人もいる。湯は毎回交換し入浴剤や好みのシャンプーなどを使用し楽しんでいる。入りたくない人には無理強いせず、足浴から始めたり、日にちや職員を替えて声がけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でゆっくり過ごしたい方など、ご本人のペースに合わせて1日を過ごしていただいています。無理なく休息できるようホールのソファも使用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用などを職員間で情報共有し、服薬後の状態に変化などがないかについても観察を行い、気になることがあれば訪問看護や主治医へ相談を行っています。また、服薬チェックは必ずダブルチェックを行い、事故防止にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等、ご本人が好きなことや得意なことに集中できる時間を設けるなど役割や楽しみを通して、気分転換、リフレッシュしていただけるような支援をしています。また、会話を楽しめるようにその方に合った話題を提供しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品や日用品などの買い物や行きたい場所、思い出の場所などに、入居したことで行けなくなってしまったということがないよう、外出の機会も多く設けています。ご本人、ご家族からも大変喜ばれています。	普段の買い物や散歩の他に初詣、どんと祭、季節ごとの花見、紅葉狩りなど、外出の機会を多く設けている。夜のページェントドライブや外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫には1人ずつポーチがあり、必要な分を持ってご希望に応じてご使用いただくようにしています。出納帳を作成し、毎月ご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族のご意向がある際は都度、電話やZoomができるよう支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下等の共用空間には、生活感や季節感を感じられるような設えを取り入れています。また、植物や生き物などのお世話をすることがお好きな方がおり、夏場はプランターで野菜を育てました。また、室内の設えはご利用者と一緒で作成したり、購入も一緒に行って飾りつけを楽しんでいただいています。	共用空間には季節が感じられるよう、利用者と職員が手作りした作品が飾られている。植物の水やりをする人もいる。温・湿度は職員が管理し、空気循環器も設置し換気にも配慮している。トイレの表示や居室のドアは利用者が分かりやすいように配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が居心地よく過ごしていただけるよう、気の合う方と近くの席で過ごしていただいたり、テレビがお好きな方は観やすい席にするなどの工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用していた物や写真などをお持ちいただき、使い慣れた物の継続や安心して過ごしていただけるよう配慮しています。またお部屋の清掃もご本人と一緒にしたり、許可を得て職員が清掃をしています。	ベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが備え付けられ、トイレのある部屋もある。利用者はテレビ、冷蔵庫、姿見、タンスなど馴染みの物を持ち込んでいる。家族の写真など飾っている人もいる。おやつの時間に気の合う人の部屋でお茶をする人達もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗濯物干しなどご本人が出来ることは一緒に行っています。また、歩行が不安定な方も安全に移動できるような環境作りを行っています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300477	事業の開始年月日	2024年4月1日	
		指定年月日	2024年4月1日	
法人名	株式会社ナラティブ			
事業所名	グループホームやよいの杜 ユニット名：日向			
所在地	(〒 984-0826) 仙台市若林区若林七丁目10番19号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2025年1月8日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ともに泣き、ともに笑い一瞬、一瞬を大切に」を事業所目標にしています。職員、ご利用者と分けることなく、やよいの杜の皆が家族の一員として、その瞬間のできごとを共感できるような環境作りに努めています。
また、法人理念にもある「あたりまえの権理」を大切に、いろいろな障がいをもっていても皆で助け合い、支え合い、その方の残存能力を見極めながらできることを一緒にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

・法人理念：わたしたちは「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」をめざします。人と人、街、自然との関わりを大切にしながら、一人ひとりの想いに耳をかたむけ、誰もが自分の人生の主人公として主体的に生き、価値を認められて人とながらながら生きる権理を応援します。
・事業所目標：「ともに泣き、ともに笑い一瞬、一瞬を大切に」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

清山会医療福祉グループに所属の法人「株式会社ナラティブ」は、2024年4月に「グループホームやよいの杜」を開所した。清山会のグループとしては若林区で初めてのホームであり、職員公募により名称「やよいの杜」と決定した。ホームは若林7丁目の住宅地の中にあり、2階建ての2ユニットである。ユニット間は、エレベーターと段差の低い階段で自由に行き来できる。近くに商業施設も多く、買い物を楽しんだり、近くの広瀬川の緑地が広がる河川敷でゆっくり散歩もできる。

【事業所の優れている点・工夫点】

①理念の実現に向けて取り組んでいる点

2024年4月開所し、まだ1年経っていないが、管理者を中心に職員は、理念に掲げている『利用者が安心して自分のあたりまえの生活』ができるよう日々のケアに努めている。

②外出の機会を多く設定している点

現在、ほとんどの利用者が自立して歩行しており、家族から「できるうちに散歩などさせてほしい」との要望もあり、外出の機会を増やしている。

③地域との関わり作りに努めている点

地域の班長から声がかげがあり、町内会の加入を勧められて加入した。今後は町内会の行事等に参加しながら交流を深め、ホームのことを理解してもらえるように働きかけて行こうとしている。また防災訓練などでも協力体制が整えられるよう信頼関係を築いていきたいと考えている。

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	グループホームやよいの杜
ユニット名	日向

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

自己評価および外部評価結果（事業所名：グループホームやよいの杜）「ユニット名：日向」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、社是を念頭に置き、日々従事しています。ミーティングや管理者との面談時、日々の勤務時にも振り返りを行っています。理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人理念のもと、事業所開設前に事業所目標を職員で考えた。理念を共有して日々のケアに活かし、ユニットミーティングなどで日々の関わり方を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、区長や地域包括支援センターの職員の方々とは2ヶ月に1回の運営推進会議などを通じて交流を図っております。近隣への散歩や買い物を通じて、地域の一員とされるよう交流出来る機会を設けています。	町内会に加入し、年間スケジュールにある河川敷の掃除や、夜間のパトロールなどに職員が参加している。散歩や買い物の時など、近隣住民と挨拶を交わしている。	地域住民との交流、協力体制が徐々にできることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、定期的に事業所の様子をお伝えする中で、認知症の人の理解や支援方法をお伝えしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、町内会の区長や地域包括支援センターの職員に事業所の様子等をお伝えしております。	メンバーは、町内会役員、班長、地域包括職員、利用者、家族も出席し2ヶ月に1回開催している。ホームからは運営状況など報告し、町内会からは行事の案内などがある。家族から協力したいという意見もあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、事業所の様子や活動について、地域包括支援センターにお伝えしております。必要時は協力のお声がけをさせて頂いております。	区役所には不明な点などを電話で照会・相談している。運営推進会議メンバーである地域包括職員から必要時に助言や支援などを得ている。区の保護課とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回、身体拘束適正化委員会を開催するとともに、事業所内の勉強会にて、身体拘束をしないための研修を行い、職員の理解を深めるようにしています。また、安易に施錠をしないようにドア付近にセンサーチャイムを設置するなど工夫しながら対応しています。	年4回「身体拘束適正化委員会」を開催している。また内部研修を行い職員はグレーゾーンカードに記入し、検討している。日中玄関は施錠せず、センサーチャイムで対応している。夜間は防犯のため19時から翌朝6時半まで施錠している。離設事故に備えて、法人からGPSの支給があった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会で虐待防止についての研修を行っています。また、「不適切ケア」がないか日々の関わりについて振り返る機会を定期的に設け、職員の理解と意識付けに努めています。	内部研修を行い、日々のケアの中で不適切な言葉遣いや行動がないか振り返り、虐待防止について理解できているか確認している。新人や若い職員が多く、気になる場面では管理者がその場で指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の勉強会にて成年後見制度について学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族と一緒に契約内容や重要事項を読み合わせし、その都度、疑問に答えながら、不安なく入居していただいています。また、説明後にも疑問や不安には、いつでも応えるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、ご利用者の日々の様子をお伝えするとともに、ご家族からご要望やご意見を伺う機会を設けています。いただいたご意見に対しては、全職員で共有し、改善を図っています。また、玄関には意見箱を設置し、いつでも投書できるようになっています。	面会時や電話で意見・要望を聞いている。また運営推進会議に家族が出席しており、その際にも意見・要望を聞いている。家族からは「できるうちにもっと運動や散歩をさせてほしい」、「認知症ケアについて教えてほしい」などの意見が出されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、個人面談を実施しています。また法人全体で実施するメンタルヘルスアンケートや仕事と職場のアンケートを通じて、なかなか言いにくい意見や希望などを拾い上げる機会を設けています。	職員は、管理者と年2回面談し、自分の立てた目標について確認をしている。また法人が行うメンタルヘルスアンケートで出された、言いにくい悩み、仕事の不安などについてもすぐ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	総合職や役職者へのチャレンジ制度を法人として設けており、職員自ら取り組んでいける仕組みがあります。また、職場のアンケートを通じて、職員の意見を反映できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加や法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしています。また1年目、2年目とフォローアップ研修があり、職員からの意見を聞く機会もあります。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	Zoomで開催している地域ケアよろず懇話会に参加し、同業者やそれ以外の職種の方の意見を聞く機会があります。また、法人内の研修等を通じて、横の繋がりができるような仕組みもあります。	清山会医療福祉グループ主催の「地域ケアよろず懇話会」にオンラインで参加している。法人の研修会では、医療との繋がり方を学び、サービスの質の向上を目指している。宮城県認知症グループホーム協議会に加入している。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族を含めた事前の面談を行い、ご本人の想いや困っていることを伺う機会を持ち、不安がなく入居できるように努めています。また信頼関係を構築できるようにご本人の立場にたって関わりを持つようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、ご家族を含めた話し合いの場を多く持ち、ご家族の不安な気持ちや悩み、要望を気軽に話せるよう、じっくりと時間を使って少しでも不安が軽減できるように対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族やこれまで利用していた施設・病院の職員や、ケアマネージャーから詳しくお話を伺い、収集した情報を基に多職種で見極めを行い、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、入居者という区別なく、お互いが困っていることに手を差し伸べられるような環境作りに努めています。皆で協力し、家事や買い物、得意なことを日々活かせるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な電話、毎月の手紙を通じて、コミュニケーションを図る機会を設けております。また、こまめに日々の様子を報告したり、訪問診療時などの際は報告の連絡を行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に聞き取りを行い、馴染みの方との交流や関係が途切れないよう努めています。馴染みの方に会いに行ったり、馴染みの場所に行く機会を定期的に設けております。	面会の規制はないが、事前に電話で時間等を確認している。正月などに自宅に泊まったり、お盆には家族と墓参りに行く人もいる。近所のお店に、職員と一緒に出かけ、好きな物を買ってくることもある。「行けるうちは馴染みの場所に連れていきたい」と望んでいる家族もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々生活する中でお互いの性格や個性を尊重しながら一緒に活動しています。職員が間に入ることで交流が図れる方の場合、積極的に関わりが持てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的な電話連絡や毎月の手紙で関係性が途切れることのないよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のペースに合わせた生活が継続してできるよう柔軟性を持ち、その方の想いを尊重したお声かけを心掛けて対応しています。	現在、ほとんどの利用者が思いや意向を伝えられるが、入居前の生活については家族からも生活歴などを聞いている。生活歴から夫婦で入居していてもユニットを分けるなど、利用者一人ひとりが穏やかに暮らせるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にもご協力頂きながら、入居前の聞き取りで、これまでの生活習慣や生活環境の把握に努め、入居後も日々の関わりの中でご本人の情報把握に努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいたご本人の心身状態や変化などを共有する申し送りノートを作成し、職員間で把握できるよう努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの聞き取りや満足度を伺い、関係者でカンファレンスを開催し、プランを立てています。その方自身のケアプランの目標を達成できるようミーティング時に話し合い、実践、改善を行っています。	介護計画作成担当者は、本人、家族から聞き取りをしている。居室担当者からもモニタリングを行い、介護計画の目標が達成できるよう3ヶ月に1回ユニット会議にて計画の見直しを行っている。入院が必要になるなど、状態変化があればその都度計画を見直し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での「気づき」を申し送りノートやミーティング、日々の職員同士の会話の中で情報共有し、実践や改善点の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を把握し、要望が実現できるようすぐに対応しています。今後、看取り期における面会なども実施する予定です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の河川敷、施設などを散歩しながら周辺地域の話などを行い、近隣の地域の方とも交流の機会が持てるようにしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望に沿ったかかりつけ医を選んでいただいています。受診時や何かあった際にはご家族にすぐに連絡ができるようにしています。	入居時に希望があれば「清山会医療福祉グループ」の内科医がかかりつけ医となり、月2回訪問診療を行っている。その他の通院は職員が同行し、状態に変化があれば家族に報告している。「清山会医療福祉グループ」の看護師が週1回訪問し、健康管理をしている。訪問歯科とも契約しており、口腔ケアや治療を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと連携を図り、週1回以上看護師が訪問しており、その都度、報告を行い情報を共有しております。看護師不在時もノートに記載し、後にアドバイスをいただくなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者には入院時にその方の情報を伝えています。また入院時や退院時に病院関係者に不安なことなどを相談し、助言をいただいています。いただいた情報は、職員間で共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における指針の説明を行っています。また、主治医と話し合う機会を設け、ご本人、ご家族の意向を確認した後に看取りの指針をお伝えし、共有を図っております。状況に応じ、地域の訪問看護ステーションとも連携を図り、チームで支援しております。	入居時に重度化した時の指針を家族に説明している。昨年、看取りを行った際は、食事や水分摂取ができなくなった時点で、家族に医師から改めて看取りの流れについて説明を行った。ホームで初めての看取りであり、新人や若い職員が多いため、今後、落ち着いたら職員アンケートで振り返りを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会で急変時や事故発生時の対応について研修を行っています。ユニットミーティング時にも振り返りを行います。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の把握を行い、事業所では年2回、避難訓練（夜間想定を含む）を実施をしています。災害時の備蓄なども備えています。地域の防災訓練にも参加予定です。	火災、風水害、地震対応マニュアルの他にコロナ、インフルエンザなど感染症対応についてのマニュアルも整備されている。年2回、避難訓練を実施し、業者が設備点検を行っている。その他、毎月職員が消火器などのチェックを行っている。今後、地域住民の応援、協力が必要だと考え検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の想いに耳を傾け、相手を理解しながらご本人を尊重し、お一人お一人に合せた声掛けを行っています。	入居前からの呼び名やなんと呼ばれたいか本人に聞き、一人ひとりに合わせた声かけをしている。接遇、プライバシー保護の研修も行っている。本人の羞恥心を考えて、入浴や排泄介助の際には周りの人に気づかれないよう声がけし誘導している。居室に入る時もノックや声がけし確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相性も考慮しながら、お一人お一人との関係を構築し、それぞれが自己表現、自己決定が自由にできるよう職員間で連携しながら、働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の起床や就寝時間、食べ物の好みも異なるので、その方のペースや好みに合わせて生活をしていただいています。職員の都合が優先とならないように徹底しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びなどはご本人に決めて頂いております。ご自身で選ぶことが難しい方は、季節や気温にあった洋服を着ていただいております。下着や洋服など足りないものがあつた際は一緒に買い物を行い、お好きなものを選んでいただいています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの、嫌いなものなどご意向を確認しながら、お好きな食事の提供をしております。見た目や色合いなども工夫しております。行事の際の食事也希望を伺いながら、食事内容の選択ができるよう、食事が楽しめるような工夫をしております。	食事はホームで手作りしている。季節の行事に合わせた食事を考えて提供もしている。誕生日には本人の好きな物とケーキでお祝いしている。利用者は盛り付け、味見、食器洗いや皿拭き、テーブル拭きなどを職員と一緒にやっている。水やりを行いながら、プランターで育てたトマトや小松菜なども食材に取り入れ楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や栄養がバランスよく食事できるように献立を作成し、食事中に感想を伺っています。水分が少ない方には代わりになるようなヨーグルトやゼリーを召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨きし、入れ歯の方は毎晩洗浄剤を使用して口腔ケアを行っています。口腔内の状態を常に観察し、必要時に歯科受診も行っていきます。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄の状況を把握し、排泄リズムを把握しながらご本人の自尊心を傷つけないようなお声かけを心掛けながら対応しています。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、タイミングに合わせて声かけやトイレ誘導を行っている。夜間は睡眠を優先し無理に起こさず、状態に合わせたパッドを使用するなど工夫している。便秘対策としては食事に乳製品を取り入れたり、体操や散歩など体を動かすよう声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分など、その方に応じた体調管理や便秘予防に努めています。できる限り下剤など薬に頼らないよう、体操など日々の活動にお誘いしています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂がお好きな方の希望に沿ったり、可能な限りご本人の希望に沿った時間に入浴していただいています。ご本人の使い慣れたシャンプーなどを使用し、入浴を楽しんでいただいています。	週何回に拘らず、本人の希望に沿って入浴を楽しんでもらっている。自立している人も多く、風呂好きで毎日入る人もいます。湯は毎回交換し入浴剤や好みのシャンプーなどを使用し楽しんでいる。入りたくない人には無理強いせず、足浴から始めたり、日にちや職員を替えて声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋でゆっくり過ごしたい方など、ご本人のペースに合わせて1日を過ごしていただいています。無理なく休息できるようホールのソファも使用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用などを職員間で情報共有し、服薬後の状態に変化がないかについても観察を行い、気になることがあれば訪問看護や主治医へ相談を行っています。また、服薬チェックは必ずダブルチェックを行い、事故防止にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等、ご本人が好きなことや得意なことに集中できる時間を設けるなど役割や楽しみを通して、気分転換、リフレッシュしていただけるような支援をしております。また、会話を楽しめるようにその方に合った話題を提供しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食料品や日用品などの買い物や行きたい場所、思い出の場所などに、入居したことで行けなくなってしまったということがないよう、外出の機会も多く設けています。ご本人、ご家族からも大変喜ばれています。	普段の買い物や散歩の他に初詣、どんと祭、季節ごとの花見、紅葉狩りなど、外出の機会を多く設けている。夜のページェントドライブや外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫には1人ずつポーチがあり、必要な分を持ってご希望に応じてご使用いただくようにしています。出納帳を作成し、毎月ご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族のご意向がある際は都度、電話やZoomができるよう支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下等の共用空間には、生活感や季節感を感じられるような設えを取り入れています。また、植物や生き物などのお世話をすることがお好きな方がおり、植物の管理をいただいています。また、室内の設えはご利用者と一緒に作成したり、購入も一緒に行って飾りつけを楽しんでいただいています。	共用空間には季節が感じられるよう、利用者と職員が手作りした作品が飾られている。植物の水やりをする人もいる。温・湿度は職員が管理し、空気循環器も設置し換気にも配慮している。トイレの表示や居室のドアは利用者が分かりやすいように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が居心地よく過ごしていただけるよう、気の合う方と近くの席で過ごしていただいたり、テレビがお好きな方は観やすい席にするなどの工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用していた物や写真などをお持ちいただき、使い慣れた物の継続や安心して過ごしていただけるよう配慮しています。またお部屋の清掃もご本人と一緒にいたり、許可を得て職員が清掃をしています。	ベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが備え付けられ、トイレのある部屋もある。利用者はテレビ、冷蔵庫、姿見、タンスなど馴染みの物を持ち込んでいる。家族の写真など飾っている人もいる。おやつの時間に気の合う人の部屋でお茶をする人達もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理や洗濯物干しなどご本人が出来ることは一緒に行っています。また、歩行が不安定な方も安全に移動できるような環境作りを行っています。		